



在宅医療・介護連携推進協議会から

ちょっと

いいかい(医~介)

特集 在宅医療
(医師に密着)

VOL.5

医師が在宅に来てくれるときはどんな時か知ってますか？

在宅医療あれこれ



在宅医療には、訪問診療と往診があります。

訪問診療：病気や障がいがあっても、住み慣れた家で過ごしたいという方が、家にいながら医療を受けることが出来る仕組みです。患者さんの状況に応じて、計画的に定期的に医師が訪問します。

往診：急変や看取りなど突発的な病気の変化に対し緊急的に家に伺って診療します。

仲嶋秀文医師へのインタビュー！

Q 仲嶋先生が訪問診療を始めたきっかけは何ですか。

A 病院を始めて数年後、患者さんの体調が悪くなり通院できなくなった方がいました。そこから訪問診療を始めました。

Q 訪問診療ではどのようなことをしますか。

A 患者さんの状態を確認し、必要に応じ訪問看護ステーションや病院と連携をとります。病院と違って、できることには限界がありますが採血や心電図をおこなうこともあります。

Q どれくらいの頻度で訪問されるのでしょうか。

A 2週間に1回、4週間に1回などその方の病状にあわせて頻度が変わります。その間、医師以外にも訪問看護ステーションの看護師などが定期的に訪問し病状が確認できるようにしています。

Q 仲嶋先生の在宅医療への想いを教えてください。

A 患者さんが加齢や病気のために通院が困難になった場合に、訪問診療を行っています。他院からご紹介いただくことやケアマネジャーからご相談いただくこともあります。在宅療養の一番の利点は、住み慣れた環境で、親しい方たちに囲まれて、安心して療養できることです。それを支えるために、医療と介護や行政に関わる多職種と連携しており、訪問診療のほかにも訪問歯科診療、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、訪問入浴、訪問服薬指導などを利用していただくことができます。一診療所で出来ることは限られてしまいますが、在宅療養を希望される患者さんが自分らしい生活を人生の最後まで維持できるよう連携してお手伝いしていきたいと考えています。



保健師が同行訪問しました！

昔は、かかりつけ医の往診は、当たり前のように行われており、医師が治療から看取りまでの全てを担っていたと思います。

訪問診療の医師の果たす役割は大きいですが、仲嶋先生のお話のように、様々な機関や関係スタッフが連携をとることにより、患者さんやその家族を支えていくことができていることが実感できました。患者さんを支えるご家族の協力も大切ですね。

医師が患者さんに手を当てることによって患者さんやご家族のホッとした表情が印象的でした。ご家族の協力のもと、いちばん自分らしくいられる自宅へ信頼できる医師が来てくれることは、地域で生活していくためには欠かせない安心だと感じました。患者さんだけでなくご家族の健康状態なども考慮され、そこに関わる方を含めた支援の大切さを感じました。